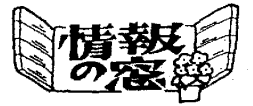


APORS 2009 に参加して



八木 恭子 (秋田県立大学)

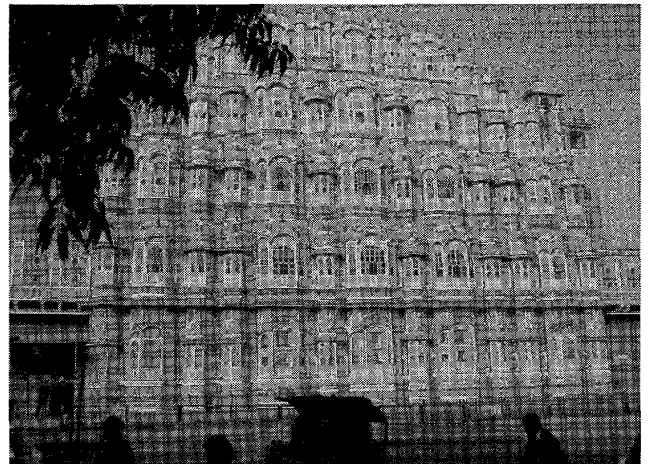
第8回アジア太平洋地区のOR学会連合大会 APORS 2009 が2009年12月6~9日にインドのジャイプル市の郊外にある大学 Jaipur Institute of Management で開催された。ここで APORS (Association of Asia-Pacific Operational Research Societies) は、アジア太平洋地区各国のOR学会を構成メンバーとする国際組織であって、国際学会は3年に一度、IFORS (International Federation of Operational Research Societies) が開催された翌年に開催されるのが恒例である。今回の APORS 2009 の参加者はほぼ390名であったが、ほとんどはインド国内からの参加者で、アジア地域、欧米からの参加者は2割弱くらいだったのではなかろうか。ただ今回の APORS2009 に関しては、2008年の夏に南アフリカで開催された IFORS 大会時にその開催国をインドとすることが決定された (当初はマレーシアのクアラルンプールで開催されることになっていた) こともあって、かなり準備期間も短く、主催したインドOR学会 (ORSI) は大変だったのではないと思われる。それにしては国を挙げて、大学を挙げての国際学会で、まず大盛会、大成功といえるのではなかろうか。

ジャイプルは、デリーの南西約260kmに位置するラージャスタン州の州都であり、インドの町としてはかなり歴史も古く、緑多い美しい町である。デリー、アグラとともにインドの黄金の三角地帯の一角をなす古い町で、多くの古城や要塞が残り、美しい公園や湖も多い観光地でもある。特に中心部は、約10kmの赤い城壁に囲まれ、別名「ピンク・シティー」と呼ばれる景観を築いている。数百年前に建てられたという風の宮殿、アムール宮殿などの古い宮殿はいずれもとても美しく感動したが、街中の車の轟き合いや動物、物売りの屋台であふれた光景は、筆者にとってかなりの衝撃であった。ジャイプルへは日本からは直行便は無く、デリー、もしくは、ムンバイを経由しての航路となり、同じアジア内でもかなりの長旅となった。日本人にはほとんど名前を知られていない町だと思っていたが、滞在したホテルには日本人中年女性のツアー

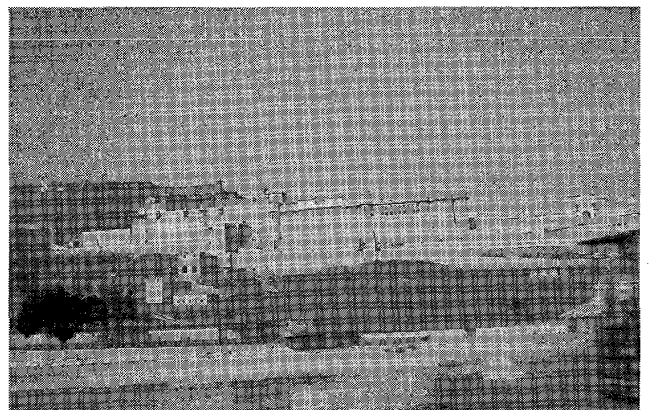
グループや熟年夫婦がいるのを見て知る人ぞ知る町なのかと思った次第である。

APORS 2009 の開催初日は、特別に飾り付けられた部屋で IFORS 会長の Dr. Elise del Rosario 氏をはじめとする、APORS、そして ORSI の幹部が揃い、盛大な開会セレモニーの中でそれぞれ大会開催を祝う言葉を述べられた。日本OR学会の Representative の大山達雄教授 (政策研究大学院大学) は、APORS 副会長のところ、会長であるはずのマレーシアOR学会代表がずっと不在だったため、APORS 会長として待遇され、APORS の活動、歴史について説明をされた。

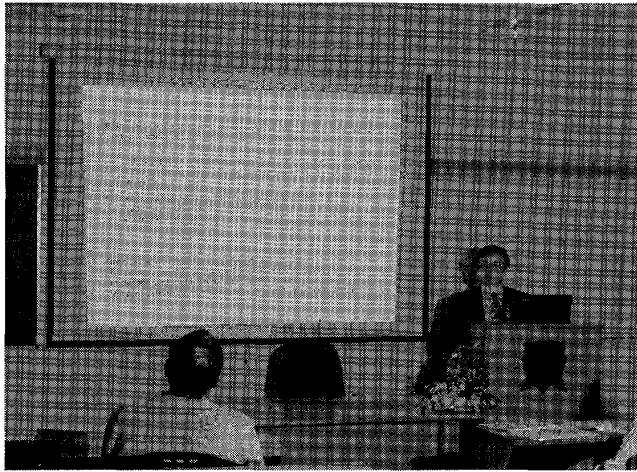
APORS 2009 では特別講演、招待講演など20件ほ



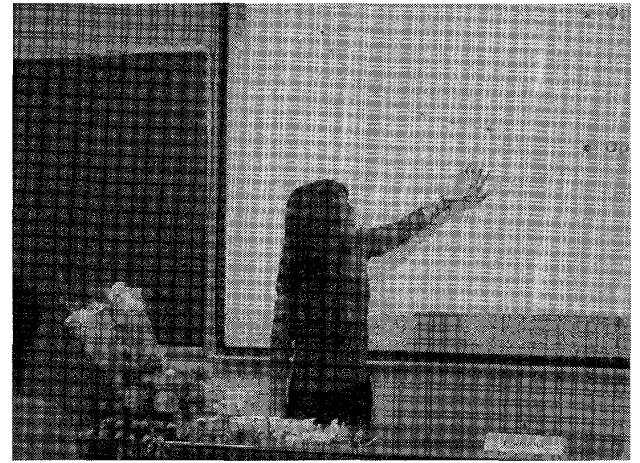
風の宮殿



アムール宮殿



大山教授の講演風景



筆者の発表風景

ど用意されていた。IFORS 現会長の Elise del Rosario 氏は“OR: A powerful and versatile discipline”と題する講演を行い、OR が誕生以来、民間、公共部門で利用されてきた概要が紹介された。また、特別講演者として米国から参加した Jonathan Caulkins 氏 (Carnegie Mellon 大学) は欧米では深刻といわれるドラッグ問題に対する OR 手法の応用を紹介し、公共政策分析への OR の適用可能性と将来の重要性を強調された。招待講演者の講演内容としては、金融部門への応用、製造業におけるサプライチェーン問題、スケジューリング問題、ロジステックス等への応用、あるいはまた危機管理、持続可能な開発、等に関するものなどが主であった。また大山教授は“Social Systems Analysis and OR”と題し、日本における OR 手法の社会システム分析手法としての OR 手法応用の現況について話された。

APORS への日本からの参加者は、大山教授と筆者を含む 4 名であった。大山先生は“4 名も”日本からの参加者がいたことに大変驚いていた。筆者の発表は、学会 2 日目の朝一のセッションであり、会場にいるほとんどの聴衆が、インドからの参加者であった。筆者は、リアルオプションの枠組みを用いた施設の立地場所と立地タイミングを同時決定するモデルの提案と、その分析についての発表を行った。筆者の発表を除き、金融工学に関する研究発表がほとんどなく、OR に関する研究も、国々の特色が存在することを実感した。今回の筆者の発表に対する質問は、施設の立地場所の決定に関わる内容が多く、INFORMS 等の他の OR 関連学会とは、異なる視点からのコメントが大変良い勉強になった。

学会 3 日目の夜には、宿泊ホテルにおいて、懇親パーティーが開かれた。乾燥した気候のジャイプルにおける屋外での夜のパーティーは、インドのこの季節にしては気温が 10 度ぐらいで予想以上に寒かったものの、開催大学の学長をはじめ ORSI、政府教育関係の来賓も多く出席し、民族音楽の演奏、民族舞踊ショーなども行われ、非常に華やかなものだった。筆者は演奏やダンスの鑑賞を楽しんだ後は、インド風ミネストローネを口にするのみで寒さの限界に達したため、部屋に戻り、休養を取った。そして、翌日の帰路の飛行機での体調悪化は、半端ないものになり、日本に帰国後、病院へ直行した。一週間は体調が戻らなかったことはここだけの話にしたい。おそらく、インドカレーのおいしさに負け、食べ過ぎた結果のことだろうと思うが……。

APORS 理事会もアジア太平洋地区の各国の OR 学会代表者を集めて期間中に行われた。その結果、2010 年から 2012 年にかけての次期 APORS 会長は中国から出されること、したがって次回 APORS 大会は 2012 年に中国で開催されること、そしてまた、その次の期にはマレーシアが会長を引き受け、大会を自国で開催することなどが決定された。来年 (2011 年) は、メルボルン (オーストラリア) で IFORS が開催される。APORS のメンバーであるオーストラリアでの開催ということもあり、今回の学会会場でも多くの宣伝がなされていた。次回の IFORS は、APORS 及び IFORS の構成メンバーである日本の OR 学会からの多くの参加者を期待したい。

最後に、本ルポを執筆するにあたり、ご協力いただいた大山教授に感謝の意を表します。